

なみきるくん

No.450

4
2026



特集

ぎよれん中期的事業推進方向(案)と令和8年度事業計画(案) 一前編一

北海道を代表
する食のプロフェッ
ショナルに、本道沿岸で獲
れる魚をテーマとした
コラムをご寄稿頂き
ます。



魚で花粉症対策!?

今、本州は花粉症シーズン真っ只中。オンラインで全国の方々に栄養指導を行っている、みなさんともつらそうにされています。北海道も徐々に花粉が舞う時季がやってきましたね。かくいう私も幼少期から花粉症に悩まされてきた一人。その症状はやや重く、くしゃみや鼻水、目のかゆみだけではなく、発熱や顔の腫れが出ることもあります。ところがここ数年、症状が和らいできているようです。

これは日々の「腸活の賜物」かもしれません。腸には免疫細胞が多く存在しており、腸内環境を整えることはアレルギー対策のひとつとして注目されています。腸活といえば発酵食品や食物繊維がよく知られていますが、実は魚も、腸活を支える食品のひとつ。魚に多く含まれるドコサヘキサエン酸(DHA)やエイコサペンタエン酸(E

PA)は、腸内細菌のバランスを保つのを助けたり、腸の炎症を抑えたりするなど、腸内環境を整える一助になると注目されています。さらに、アレルギー症状の軽減にも期待されているのです。また、魚に多く含まれるビタミンDは免疫機能の調整に働く栄養素で、免疫を整えることでアレルギー対策にも関わると考えられています。

日々の栄養指導の中で感じるのは、魚を食べる機会が少ない人が多いことです。私の指導対象では、週に2回魚を食べていれば多い方という印象です。指導では、週に半分以上は魚を取り入れるよう説明しています。

北海道の花粉シーズンが来る前に、しっかりと魚を食べて、体調を整えておきたいものです。魚さん、花粉ガードよろしくね!



うえが
上坂マチコ
食と栄養のサポートColan代表
/管理栄養士/料理家/ウェブラ
イター
テレビ出演、新聞雑誌などでコ
ラム連載や栄養監修、レシピス
タイリングの提供などを行う。
講演会や食事指導、料理講師、短
大・専門学校非常勤講師など
活動は多岐。ぎょれんと共に昆
布や鮭の情報を広く発信。

- 01 マチコさんのおさかなコラム
「魚で花粉症対策!？」
- 02 特集1
ぎょれん中期的事業推進方向(案)と
令和8年度事業計画(案) -前編-
- 10 なみまるインフォメーション
- 11 頭すっきり!! ブレイクタイム
- 12 浜の家族物語
浜中漁協/渡部 祥太郎さん ご家族
- 13 みなさんのお便りでつくるページ
なみまる おたより箱



浜中湾と琵琶瀬湾に面する霧多布港。南側の琵琶瀬地区では、4月に入るとほっき貝の桁曳き漁が最盛期を迎えるため、「マンガン」と呼ばれる特別な桁網を積んだ船で賑わいを見せます

◎表紙の写真
わたなべ しょうたろう
浜中漁協/渡部 祥太郎さんご家族です



特集
SPECIAL

ぎよれん中期的事業推進方向と
令和8年度事業計画 -前編-



ぎよれん 安田副会長

令和8年度が始まりました。今月と来月の2号にわたり、ぎよれんの「中期的事業推進方向(案)」と「令和8年度事業計画(案)」をご紹介します。

今月は中期的事業推進方向と、令和8年度事業計画のうち、漁政対策、指導・教育事業、漁業環境保全対策、販売事業(全体方針及び秋鮭)を、来月は「令和8年度事業計画-後編-」として、販売事業のうち、ほたて・昆布・鮮魚に関する事業と、末端加工製品、食の安全・安心対策、宣伝販促・食育事業、購買事業、経営体制の計画をご紹介します。

中期的事業推進方向の
基本的な考え方

本会は、「持続可能な未来を創る北海道漁業の実現」を基本方針とした中期的事業推進方向を策定し、令和5年度から3か年計画で、会員と一丸となって各種事業を推進してきました。この間、北海道漁業を取り巻く環境は、新型コロナウイルス感染症の影響が社会経済活動全般において概ね収束へ向かう一方、長期化するウクライナ紛争をはじめとする国際情勢の不安定化、円安の進行、エネルギー・資材価格の高止まりなどにより、依然として先行き不透明な状況が続いた3年間となりました。

また、気候変動や地政学的リスクの顕在化に加えて、従来の延長線上では捉えきれない社会構造の変化への対応が強く求められた期間でもありました。

このような情勢のもと、北海道の漁業生産は、いわしやほたての比較的安定した生産が下支えとなつたほか、昆布、さんま、いかなど一部魚種において回復の兆しが見られたものの、秋鮭が突発的な大不漁に見舞われるなど、全体としては依然として厳しい状況で推移しました。

また、地域や魚種による生産・経営状況の格差が一層拡大するとともに、自然環境の急激な変化が漁業経営に深刻な影響を及ぼしました。さらに、少子高齢化の進行や地域からの人口流出による労働力不足は、漁業経営のみならず、水産加工業をはじめとする水産業界全体においても、生産基盤の維持・確保を困難にする要因となっております。

消費流通面においては、国内人口の減少が継続するなか、コロナ禍を契機とした消費者のラ展開するとともに、デジタル手法も活用しながら、食育などの魚食普及活動をCSRの取組と連携して推進します。

輸出においては、既存販売先との取組強化を図るとともに、品目別戦略に基づく新たな販売ルートの維持・開拓に取り組めます。

さらに、鮮魚流通対策については、浜と連携した加工・冷凍・流通体制の拡充を進め、魚価の安定と持続的な流通体制の確立に向けた取組を推進します。

購買事業については、原材料や燃油、人件費の高騰により上昇する漁業資材コストの軽減を図るため、系統ブランド資材の開発・普及を一層推進するとともに、漁業者ニーズを踏まえた資材の安定供給と取扱品目の充実に取り組めます。

あわせて、漁具リサイクルの継続・普及や環境配慮型包装資材の活用促進、廃プラスチックの回収・再資源化など、環境負荷の低減に向けた取組を強化します。

また、漁業用燃油事業については、施設の点検・整備を徹底し、管理体制の充実と系統利用の促進を図るとともに、省力化機器や新技術の導入支援を通じて、営漁コストの削減と作業環境の改善に取り組めます。

以上、次期5か年の各種事業推進にあたっては、指導・経済事業連合会として、益々高まる浜からの負託にこたえ、「浜から信頼される」系統組織であり続けるために、新技術の活用も検討したなかで生産性の向上を図るとともに、浜との連携をさらに強化し、今後も想定される厳しい環境に対応するための盤石な経営体制の構築を目指し、各事業課題に挑戦していくこととします。

り長期的かつ未来志向の計画体系とすることとしました。

その中核として、2030年ぎよれんビジョン「守る・育てる・つなぐ―持続可能な未来を創る北海道漁業の実現」を掲げ、山積する諸課題の解決に向け、組織を挙げて取り組めます。

指導事業については、海洋環境の変化に伴う水産資源の変動や漁業者の減少、資源管理の高度化など、北海道漁業が直面する諸課題に対応するため、実態に即した資源管理体制の構築と資源の維持・回復に取り組むとともに、災害や風評被害からの復興支援、担い手・後継者対策や設備投資支援を通じて漁業生産基盤の強化を図ります。

あわせて、漁協が地域漁業の中核として持続的に役割を果たしていけるよう、漁協経営の適正化に向けた指導・支援を継続するとともに、研修や情報提供を通じて浜の人材育成と組織力の強化に取り組めます。

河川・海洋環境保全対策については、関係機関と連携しながら、自然環境の変化や多様化する課題に的確に対応し、北海道の美しい海と豊かな海洋生物を将来にわたり守り続けるための取組を一層強化します。

販売事業については、国内流通対策を基軸として、漁協・関連会社・協力会社との組織的な連携のもと、安全・安心対策に万全を期しつつ、原料供給の不安定化や消費動向の変化に対応した高次・高付加価値加工を推進するとともに、多様化するマーケットに対応した商品開発機能および販売体制の強化を図ります。

また、販売戦略と連動し、消費者志向や社会情勢を的確に捉えた効果的な宣伝・販促活動

イフスタイルや購買行動の変化が定着し、家庭内消費や簡便志向、価格への感度の高まりなど、市場構造の変化への柔軟な対応が一層求められた3年間となりました。

一方、海外輸出については、世界的な水産物需要の拡大や円安基調を背景に、道産水産物の輸出量・金額は一定の伸びを示したものの、海外市場の不安定な動向や為替変動リスクや関税リスク、福島第一原発ALPS処理水海洋放出に伴う風評被害への対応など、輸出環境を巡る課題も顕在化しており、的確かつ継続的な対応の重要性が改めて認識されました。

また、SDGsの考え方が社会全体に浸透するなか、脱炭素化や生物多様性の保全といった環境課題への対応は、企業の社会的責任にとどまらず、取引先や消費者からの評価、さらには市場競争力にも直結する重要な要素となってきました。水産業においても、環境に配慮した生産・流通体制の構築や、持続可能性を意識した取組の推進が求められており、SDGsが掲げる目標に沿ったCSR活動の重要性は、今後一層高まることが見込まれます。

このように、北海道漁業を取り巻く環境は依然として厳しさを増しており、その変化のスピードはかつてないものとなっております。これらの課題は短期的な対応のみでは解決が困難であり、将来を見据えた中長期的視点に立った取組を継続的かつ計画的に進めていくことが不可欠です。

こうした認識の下、北海道漁業の持続的発展と地域漁業の活性化を図り、将来にわたり道産水産物の安定供給体制を確立していくため、次期中期的事業推進方向においては、従来の3か年計画から5か年計画へと計画期間を変更し、よ

○流通

1. 国内販売対策

- (1) 会員並びに重点取引先との関係深化による安定した集荷体制の構築
- (2) 多様化するマーケットに対応した商品開発機能及び販売体制の強化
- (3) 北海道ブランドの価値向上と効果的な販促活動の実施

2. 輸出対策

- (1) 会員、関連会社一体となった輸出機能の強化
- (2) 品目別戦略に基づく新たな販売ルートの開拓
- (3) 北海道ブランドの浸透と現地ニーズへの対応強化
- (4) 輸出リスクへの対応強化

購買部門

○漁網網

1. 系統ブランド資材の品目拡充

- (1) 生産者の要望に即応した商品化
- (2) 既存資材の製造メーカー減少に対応する代替資材の開発

○石油製品

1. 系統燃油供給体制の再構築と安定供給に向けた取組

- (1) 地元販売店廃業に備えた港内給油施設の整備
- (2) 共有燃油施設の修繕と改廃協議の実施
- (3) A重油施設から軽油施設への転換

○包装資材

1. 環境負荷低減に対する取組

- (1) プラスチック使用数量の削減に向けたエコ包装資材の開発と普及推進

○漁業資材リサイクル

1. 廃棄漁業資材の回収・再資源化の推進

- (1) 廃棄漁業資材のリサイクル化の普及推進
- (2) リサイクル素材商品の新規開発

○その他機器

1. 漁業省力化機器の開発による営漁コストの削減

- (1) 漁協並びに関連メーカー等との連携による機器開発
- (2) 補助事業等を活用した普及推進

経営重点方針

○持続可能な経営体制実現に向けた改革の推進

1. 経営基盤強化と合理化

- (1) 経営環境の変化に適應した収益構造の確立に向けた組織効率化
- (2) 効率的な経営の推進に向けた本会グループ再編の検討
- (3) DX・AI活用の強化による業・事務合理化のさらなる推進

2. ガバナンス経営による組織価値の最大化

- (1) 組織の未来を守り、育てるためのコンプライアンス(法令遵守)経営の継続強化
- (2) ERM(統一的リスク管理)の強化による危機対応力の向上

3. 本道漁業の新たな可能性の拡大

- (1) 増養殖・スマート漁業等の推進に向けた先行事例の情報収集と環境整備

○未来人材創造戦略の推進

1. 本会の“人財”の可能性を最大限に引き出す職員教育及び適正人員配置

- (1) 協同組合意識の醸成とやる気・能力を引き出す職員教育の実施
- (2) “人財”の力を最大限に活かす適正人員配置
- (3) 人口動態を踏まえた柔軟で持続可能な人事制度改革の継続実施

○海と地域の価値をひらくCSR活動の推進

1. 持続可能な海洋環境の保全に向けた取組推進

- (1) 海洋環境保全活動ならびに藻場再生活動の推進
- (2) 脱炭素化の推進

2. 食を通じた海の価値創造の推進

- (1) 食育と普及宣伝活動による水産物の魅力発信
- (2) 取引先と連携したエシカル消費の推進

3. 海から広がる新しい価値の共創

- (1) 社会貢献活動を通じた水産物の価値向上と地域社会との連携強化
- (2) 海洋生態系の保全と生物多様性の回復に向けた取組の推進(ネイチャーポジティブ宣言)

中期的事業推進方向(案)(令和8年度～令和12年度)

2030ぎょれんビジョン

『守る・育てる・つなぐー持続可能な未来を創る
北海道漁業の実現』

重点施策

- 海洋環境への適応と持続可能な資源利用
- 協同組合活動の浸透ならびに販売力強化による経営基盤の構築
- 北海道水産業の価値向上と未来への発展

部門別重点方針

指導部門

○漁政

1. 持続可能な本道漁業を実現するための漁業経営安定化に向けた施策の構築

- (1) 漁業経営基盤強化のための所得向上とコスト削減対策ならびに計画的な設備投資等の取組拡充
- (2) 漁村地域活性化に向けた漁業振興の取組推進
- (3) 安定した漁業生産実現に向けた道産水産物の流通対策強化

2. 安定した資源の構築に向けた施策の構築

- (1) 本道漁業者が主体的に取り組む資源管理体制の推進
- (2) 資源・漁業の実態と乖離した資源管理手法の見直しに向けた取組
- (3) 海洋環境の変化に打ち克つ増養殖事業の推進に向けた取組

○指導教育

1. 魅力あふれる漁協組織づくりのための経営適正化および人材育成

- (1) 漁協経営の安定化に向けた取組推進
- (2) 漁協組織人材の確保に向けた支援
- (3) 協同組合意識の醸成に向けた取組強化
- (4) コンプライアンスの向上に向けた取組推進

○環境

1. 豊かな海づくりの実現に向けた漁業環境保全対策の強化

- (1) 河川・海洋環境保全対策の強化
- (2) 有害生物等による漁業被害対策の拡充強化
- (3) 森林環境保全対策の拡充強化
- (4) 再エネ開発に伴う漁業への悪影響回避に向けた取組推進

販売部門

○市場

1. 安定流通・魚価維持のための産地市場対策の拡充

- (1) 資源変動に対応する鮮魚流通対策の強化
- (2) 基幹品目の魚種別流通対策の強化
- (3) 市場事業の全利用共販の推進
- (4) 道と連携した市場衛生管理体制の継続・強化

○加工

1. 漁協・協力・関連会社との組織的連携による加工機能強化

- (1) 資源の変動に柔軟に対応するための広域加工体制のさらなる強化
- (2) グループ全体の効率化と生産体制再編に向けた取組推進
- (3) DX推進とAI活用による稼働効率化と生産性の向上
- (4) 消費者ニーズに対応した高付加価値加工体制の強化
- (5) 品質・生産・商品管理体制能力のさらなる強化

令和8年度事業計画(案)

指導事業について

1. 漁政対策

海洋環境の変化に伴う水産資源の変動や漁業者の減少等といった構造的問題に加えて、自然災害、海獣等有害生物による漁業被害のほか、日中関係の悪化を受けて、中国によるALPS処理水の海洋放出に伴う日本産水産物の輸入停止措置が実質的に継続されるなど、本道漁業における課題は山積しています。

また、昨年度、小型スルメイカ釣り漁業において、TAC超過により操業規制が行われるなど、国が進める資源管理の在り方も大きく問われています。

本年度の漁政対策の推進にあたっては、本道漁業を取り巻くこれら課題が解決され、持続的な漁業が実現するよう、必要な施策実現に向けて取り組んでいくものとします。

(1) 漁業・漁協経営の安定化に向けた取組の強化

- ① 漁業者の設備投資（漁船・漁具・機器等）に係る支援策の強化に向けた取組
- ② 漁業収入安定対策の見直しに伴う代替支援策の検討継続
- ③ 漁業経営セーフティネット構築事業等、漁業経営コスト削減に向けた取組

- ④ 収入安定対策が機能しない漁業に対する下支え対策の実現に向けた取組
- ⑤ 国の施策推進に伴う水揚げ減少により減収となった漁業・漁協経営に対する支援実現に向けた取組
- ⑥ 担い手・後継者対策の取組強化と外国人材活用に向けた取組

(2) 本道の漁業の実態に即した水産資源の維持・増大に向けた取組の推進

- ① 栽培漁業・増殖殖産事業に係る実効性ある施策実現と予算確保に向けた取組
- ② 資源減少要因の究明に向けた調査研究体制の拡充強化に向けた取組
- ③ 資源管理上の課題の明確化と解決による実態に即した管理の実現に向けた取組
- ④ 漁獲が減少している資源の回復に向けた必要な対策の実現に向けた取組
- ⑤ 資源の維持・回復を阻害する密漁防止と遊漁対策の拡充強化に向けた取組

(3) 漁村振興及び漁場環境保全に係る取組の実施

- ① 有害生物による漁業被害の防止と漁業経営への影響軽減に向けた取組
- ② 水産多面的機能強化対策等の継続的な予算確保に向けた取組
- ③ 赤潮被害の抑止と軽減に向けた取組の継続

(4) 福島第一原発ALPS処理水の海洋放出による影響の軽減に向けた取組

- ① 国による各種対策事業の活用推進

2. 指導・教育事業

労働力不足と水産資源の減少傾向が続くなか、漁協経営の安定化に向け、中長期的視点を踏まえた事業運営が益々重要となってきました。令和8年度からの新5か年中期の事業推進方向の考え方に基き、「漁協組織力の強化」を達成すべく、従来からの研修、監査、漁協経営に係る指導および情報提供体制を維持しながら、業務を推進します。

(1) 漁協経営の安定化

- ① 水協法等関連法規や税制等に関する研修会開催および情報提供の継続と、中長期視点に立った計画策定に向けたツールの提供
- ② 全国監査機構による監査を通じ、漁協に対する経営実務指導の継続と、業務改善につながる情報提供と提案の実施

(2) 協同組合意識の向上

- ① 組合員に対する協同組合意識醸成に向けた研修会の開催支援
- ② 青年部、女性部など漁協下部組織で活用できる学習教材等の提供

(3) 漁協組織人材の確保

- ① 労働法や労働環境に関する情報提供、および給与等就労情報に関する情報提供の実施

(4) コンプライアンスの向上

- ① 内部統制や不祥事未然防止に関連する情

報提供や、研修会開催など漁協経営の安定化につながる対応の継続



道漁青連「漁師さんの出前授業」

3. 漁業環境保全対策

河川環境では、家畜排せつ物流出事故や、製糖工場・澱粉工場・畜産施設からの汚濁水流出など、農業関連の事故が相次いで発生し、河川環境に対する重大な懸念事項となっています。また、海外企業による休廃止鉱山の再開発など新たな課題への対応が求められています。

海洋環境では、トド等有害生物対策や、海洋プラスチックごみ問題、流木対策と洋上風力発電開発への対応など、これまで以上に環境に対する関心が高まっています。このような状況を踏まえて、下記の諸対策を推進します。

② 漁業被害に係る東京電力への損害賠償の枠組の活用継続

(5) 災害被害対策の拡充強化に向けた取組

- ① 流木等の自然災害による漁業被害からの早期復旧体制の構築に向けた取組
- ② 海岸漂着物処理推進法等の災害復旧に活用可能な各種支援事業の拡充強化

(6) 水産物貿易自由化に対する対応

- ① 多国間の貿易交渉に伴う本道漁業への影響回避に向けた取組



滝波農林水産副大臣(当時)への要請

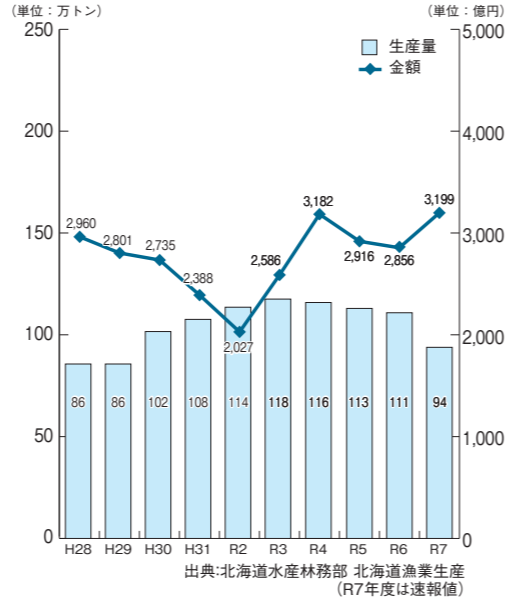
(1) 河川環境保全対策

- ① 農業系排水対策
農業関連団体との意見交換を実施し、課題の共有と対策を要請
各振興局等行政による指導強化を要請
- ② 大規模インフラ工事対策
鉄道運輸機構や開発局との協議、水質モニタリングの継続と結果確認
現地視察の実施
- ③ 半導体工場排水対策
連絡会議を通じた道・ラピダスとの協議体制の堅持
- ④ 鉱山開発対策
モニタリング結果の評価継続、PFAS等最新知見の収集
- ⑤ 鉱山開発対策
早期の情報収集、着手前の水質把握、各種抗議や要請支援

(2) 海洋環境保全対策

- ① 洋上風力発電対策
漁業者が不利益を被らないよう、事業者との協議を継続
法定協議会における提言
- ② 海洋プラスチック対策
なみまるクリーンアップ作戦の展開（5か所開催予定）
動画、HP等の各種ツールを活用した活動周知
- ③ 油流出事故対応力強化
専門家の協力の下で指導者養成講習会を実施
タンカー事故等における対応マニュアルの作成

本道漁業生産量・金額の推移



1. 秋鮭

令和7年の水揚げは、前年を大きく下回る1万4千トン台に留まりました。流通においては、浜値に連動し原料価格が高騰しており、親製品では道産秋鮭の使用を断念する加工業者が出るなど、極めて厳しい状況となっています。魚卵製品についても、水揚減少により生産量は限定的となったものの、製品価格は史上最高値となり、今後の消化状況など予断を許さない状況にあります。令和8年度においては、既存販売先との取組を一層強化し、道産秋鮭売場を死守することが最重要課題であり、加えて高単価環境を踏まえ、より付加価値を付けた製品の開発や、新しい販売態を開拓し消費のすそ野を広げていきます。一方、近年課題となっている背面処理能力



昭和63年から始まった「お魚殖やす植樹運動」

- ③ 有害生物対策
 - ① トド
 - ハンター養成にかかる補助事業の周知、募集活動の強化
 - 駆除枠の柔軟な運用を国に要請
 - 追払い・離島連携の事務処理円滑化を支援
- ② ザラボヤ
- 処理費用の増額を要請
- ③ アザラシ
- 国や道のアザラシ保護管理検討会にて、漁業者の立場を共有
- 調査のみならず実効性ある対策を要望
- ④ クラゲ類
- 大型クラゲ対策基金事業の維持要請
- キタミズクラゲ対応予算の増額要請

販売事業について

昨年の全道水揚げは、主要魚種である昆布、さんまが回復傾向をみせた一方で、秋鮭が1万トン台という過去に例をみない大減産となったほか、安定的な漁獲量・生産量を維持していた、いわし、ほたてが落ち込みをみせるなど、平成29年以来8年ぶりに100万トンを割り込む結果となりました。一方、金額については魚価高を背景に約3,200億円となる見通しです。

水産物の流通は、長引く円安基調のなか、外国人観光客に向けては依然一定の需要はあるものの、家庭向け製品については、生活コスト全般の高騰に圧される形で買い控えが進んでいる他、消費者ニーズの変化や輸出動向の先行き不透明さなどもあり、国内外への販路の拡充及び直近の経済状況にマッチした高付加価値な製品の提案が急務となっています。

このような環境変化に対応した各種流通・宣伝・販促事業を展開していくとともに、高品質・安全安心を訴求し、北海道水産品のさらなる販路拡大に繋がります。

① 市場

- 安定流通・魚価維持のための産地市場対策の拡充
- ① 突発的かつ集中水揚げ時に対応しうる広域的な凍結・加工・流通体制の拡充
- ② 全国的な原料不足を背景とした原魚対策及び魚価対策の強化

(加工・運送等)の低下については、将来的な水揚げ回復に備え、広域的な原魚処理体制を維持する必要があります。

このような状況を踏まえ、引き続き秋鮭流通対策協議会と連携し、各種対策を計画的に実施し、厳しい環境下ではあるものの、秋鮭の安定的な消流および売場の維持に向けた取組を推進していきます。

① 生鮮対策

- ① 生鮮需要の売場死守に向けた生フィレ・生筋子の取組強化
- ② 円滑な原魚供給に向けた関連会社、加工業者、配送業者との取組継続

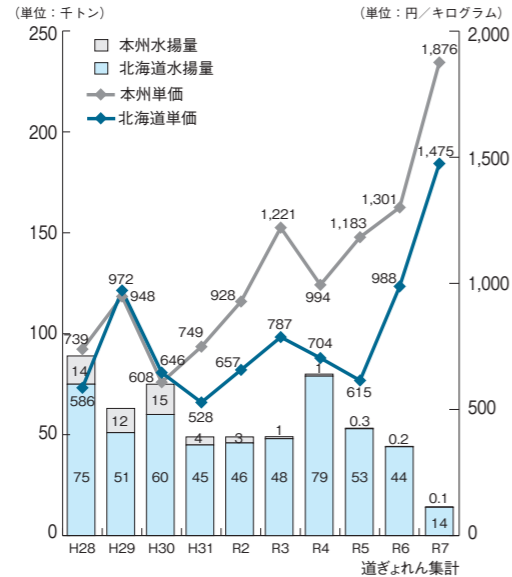
② 国内対策

- ① 収支確保を目的とした製品の適正配置と販売強化
 - ② 加工向け冷凍ドレスの集荷強化と販路の再構築
 - ③ 高単価環境に対応した付加価値製品の新規開発・改良
- ① 既存販売先(量販、生協)との取組強化による販路の死守
- ② 高単価環境に対応するための新たな販路構築(インバウンド含む外食・業務筋等)

③ 輸出対策

- ① 将来的な水揚げ回復を見据えた原料輸出ルート維持・整備(タイ、台湾、東南

秋鮭水揚量・単価推移



② 加工

- 漁協・協力会社・関連会社との組織的連携による加工機能強化
- ① 各魚種の魅力を活かした高付加価値製品の開発及び販売強化
- ② 安全・安心対策の強化に向けた品質・衛生管理スキルのさらなる向上
- ③ 社会情勢や顧客ニーズの変化に対応した販売戦略の強化

③ 流通

- ① 国内販売対策
 - ア. 各販売業態に対応した販売戦略及び商品開発の推進
 - イ. 海外委託加工も活用した安定的な原料確保及び製造コストの抑制
 - ウ. 重要取引先との取組強化による安定流通及び新規販路の拡充
 - エ. 消費動向・社会情勢に対応した柔軟な宣伝・販促活動の強化
 - オ. MSC、MEL等を活用したブランド力強化
- ② 輸出対策
 - ア. 国際情勢に左右されない、幅広い国への販路の維持・開拓
 - イ. 原料輸出による市場確保の取組継続
 - ウ. 海外ニーズに対応した製品輸出の販路確立

④ その他

- ① 水産エコラベル(MEL)認証の国内外における普及促進と認知向上
 - ② 海外でのMEL流通加工認証(COC認証)の取組推進
- ② 製品輸出ルートの維持・拡充に向けた海外販促の継続(台湾、東南アジア、香港、カナダ他)

シークワードクイズ

4月のテーマ
「**府県の鳥**」

シ	ワ	ヌ	イ	コ	オ	ン
ス	イ	グ	ウ	ツ	シ	ガ
グ	ギ	ノ	キ	ロ	ド	ウ
ギ	ト	ジ	ジ	リ	ヨ	
リ	サ	メ	ト	オ	ル	チ
ズ	バ	ラ	モ	ホ	オ	イ
ミ	モ	ヒ	シ	カ	オ	ラ

どれにも使用しなかった文字を
うまく並べてください。

解答 となります。

くわしい応募方法は、13ページをご覧ください。
抽選で5名様にクオカードをプレゼントします。

4月は「府県の鳥」がテーマです。1964年(昭和39年)北海道の道鳥にタンチョウ(丹頂)が指定されました。頭頂部の赤い部分に羽がないのが特徴です。

図の中で、たて、よこ、ななめの一直線に下のリストのキーワードが読めるようになっています。

どこにあてはまるか探してください。すべて探し終わったら、どれにも使用しなかった文字をうまく並べかえてください。

リスト

- イヌワシ (石川)
- トキ (新潟)
- ウグイス (山梨/福岡)
- ヒバリ (茨城/熊本)
- オオルリ (栃木)
- ホオジロ (千葉)
- オシドリ (山形/鳥取/長崎)
- ホトギス (香川)
- カモメ (神奈川)
- メジロ (和歌山/大分)
- ガン (宮城)
- モズ (大阪)
- コウノトリ (兵庫)
- ライチョウ
- シラサギ (徳島)
- (長野/岐阜/富山)

〈ヒント〉冬鳥なので日本ではさえずりません。冬には口をつぐんでいる。〇〇〇と呼ばれるようになったとのこと。

解き方

リストの言葉をマス目の中からタテ、ヨコ、ナナメの一直線に探していきます。文字は逆方向から読んでも、他の言葉と重複して読んでもOK。すべて見つけた後、使われなかった文字をうまく並べかえると答え(魚の名前)になります。

例題

ア	コ	ン	ブ
キ	ア	サ	リ
ア	バ	ン	サ
ジ	コ	マ	イ

リスト

- アキアジ
- コマイ
- プリ
- サンマ
- コンブ
- アサリ

〈解答〉サバ

間違いさがし

間違いは5つです。

右と左の絵には、5か所の異なるところがあります。さあ、見つけてください。(印刷のズレや汚れは関係ありません。)



※答えは13ページにあります。

令和7年度全道漁協漁場環境保全研修会・全道指導部門担当者会議

海洋環境の保全と水産政策に係る最新情報を共有しました

2月18日(水)、令和7年度の全道漁協漁場環境保全研修会(主催:北海道漁業環境保全対策本部、全国豊かな海づくり推進協会)並びに、全道漁協指導部門担当者会議(主催:ぎょれん漁政部)が札幌市のホテル札幌ガーデンパレスで開催されました。

本年度の漁場環境保全研修会は「水産業を取り巻く環境問題について」をテーマに、(株)ウロの山口社長が「家畜排せつ物問題の現状と課題、解決に向けた『ウンコノミクス』の可能性」、北海道立総合研究機構さけます・内水面水産試験場(道総研)さけます内水試) さけます資源部 さけます資源管理グループのト部研究主幹が「サケ資源をとりまく河川、



指導部門担当者会議には100名を超える出席者が集まりました

海洋の環境の現状と対応策」と題した講演がそれぞれ行われ、参加者は熱心に耳を傾けていました。

午後から開催された指導部門担当者会議においては、漁協職員約130名が出席し、(一社)漁業経営安定化推進協会等の事業実施団体から、漁業経営セーフティネット事業をはじめとする各種補助事業の事務手続きに関する説明が行われました。

また、補助事業を活用している漁業者が法令違反した場合には、国への補助金返還などの厳しい処分が措置されることから、道とぎょれんより漁協に対して、漁業者へ法令遵守を徹底するよう注意喚起を行いました。



(株)ウロ 山口 亮子社長



道総研 さけます内水試のト部 浩一研究主幹

札幌の子どもたちに漁師さんの魅力を発信

第39回 漁師さんの出前授業が開催されました

2月18日(水)、道漁青連とぎょれんの共催で39回目となる「漁師さんの出前授業」が札幌市立美香保小学校で行われ、4年生61名が参加しました。

当日は、松山地区漁青連会長の工藤さんと宗谷地区漁青連会長の伊藤さんが講師を務め、お二人が従事するたこ漁やほたて漁の様子を動画で説明



伊藤さんのロープワークに児童は興味津々でした

し、普段漁業に接する機会の少ない札幌の子どもたちに実際の漁業の現場を伝えました。

また、後半の時間では、二手に分かれてロープワークと網直しを披露。生徒たちは、工藤さんと伊藤さんの鮮や

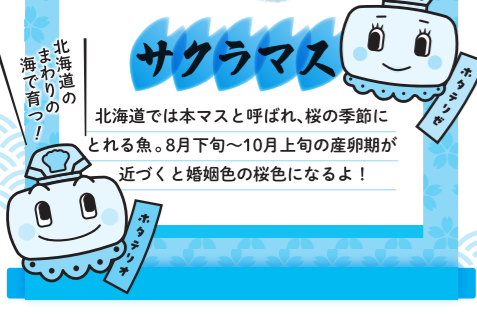


左からぎょれん・鶴巻職員、宗谷地区の伊藤会長、松山地区の工藤会長

かな技を目の当たりにして驚きの声をあげるなど、参加した子どもたちは北海道の漁業や漁師の仕事について、強く関心を持ってくれたようでした。



Good



11ページの間違いさがしの答え



ライフジャケット・見張りよし! すべてを守って一人前!
公益社団法人 北海道海難防止・水難救済センター

みなさんのお便りをつくるページです。

なみまる おたより箱

原油の輸入が止まっています。燃料が値上がりしています。戦争が早く終わる事を願っています。
(小樽市 宮古知行さん)

もうすぐ卒業式、四月から「ピカピカの二年生」が生まれます。学生、社会人は頑張ってくださいね。
(小樽市 宮古登美子さん)

すっかり春ですね。四月からのホタテ作業頑張ります。
(神恵内村 パレブベさん 48歳)

少しずつあたたかくなってきましたね。毎月浜のお母さんのレシピをたのしみしています。なじみの味でも具がちがうと味もみためが新しい料理へとつまれかわり。今月のホタテの春巻きにチーズがはいっていてもホタテはあいますね。
(小樽市 佐藤幸子さん 77歳)

煙山さんご家族の記事を読みました。風連湖のアマモを間引きの餌として空輸しているという記事を読み、数年前に家内と二人でジューンを見てきました。別海のアマモを昨年から食べているということを知り、ジューンの姿を思い出しました。人間も動物もいろいろな所でつながっていることを知り感動しました。きれいな海だからこそ守られている資源、これからも大切にしていきたいですね。
(釧路市 曾我徹也さん 81歳)

ぎよれん、しんれんの方々も異動の春ですね。淋しい限りです。皆さん、新任地でも歓迎してあげてくださいね。オホーツクの流水がチラチラ太平洋に流れ込んで来てるようです。早めに退散してくれる事を願います。
(根室市 ほつかかりさん 63歳)

実家へ帰るたびになみまるくんを見て安心し、クイズをし応募するのがルーティンになっています! 海からいただくお魚はもちろん海苔やふのり、ひじきなど嬉しいお土産付き。贅沢な帰省です。今後も期待しています。
(函館市 ままごんさん 52歳)

今シーズンの道東は雪が少なく暖かい過ぎやすい冬でした。そこはいいことですが、温暖化の影響でしようか? 温暖化は環境汚染も関係があると思います。先日合成洗剤から石けん洗剤に替えました。自分ができる身近なことから環境に良いことをしていこうと思います。
(厚岸町 海のミルクさん 50歳)

編集部からのお知らせ

皆様からのお便り、写真、イラストをお待ちしています!

次の①~④を明記の上、ご応募ください。抽選で5名様にクオカードをプレゼントします。

①なみまるおたより箱への投稿(お便り、写真、イラスト等)や、広報なみまるくん4月号への感想・ご意見など(※150字程度まで)

②11ページのシークワードの答え

③住所・氏名・年齢・電話番号

※「なみまるおたより箱」には①からご紹介します。ご応募いただいた方の個人情報、クオカード進呈や、お便り、写真、イラスト等の掲載(氏名、年齢、市町村名)にのみ使用いたします。写真やイラストは、返却できませんのでご了承ください。

■宛先
4月22日までにお願いします。

●郵便
〒060-0003
札幌市中央区北3条西7丁目1番地
北海道ぎよれん
総務企画部 広報担当

●FAX 011-242-3543

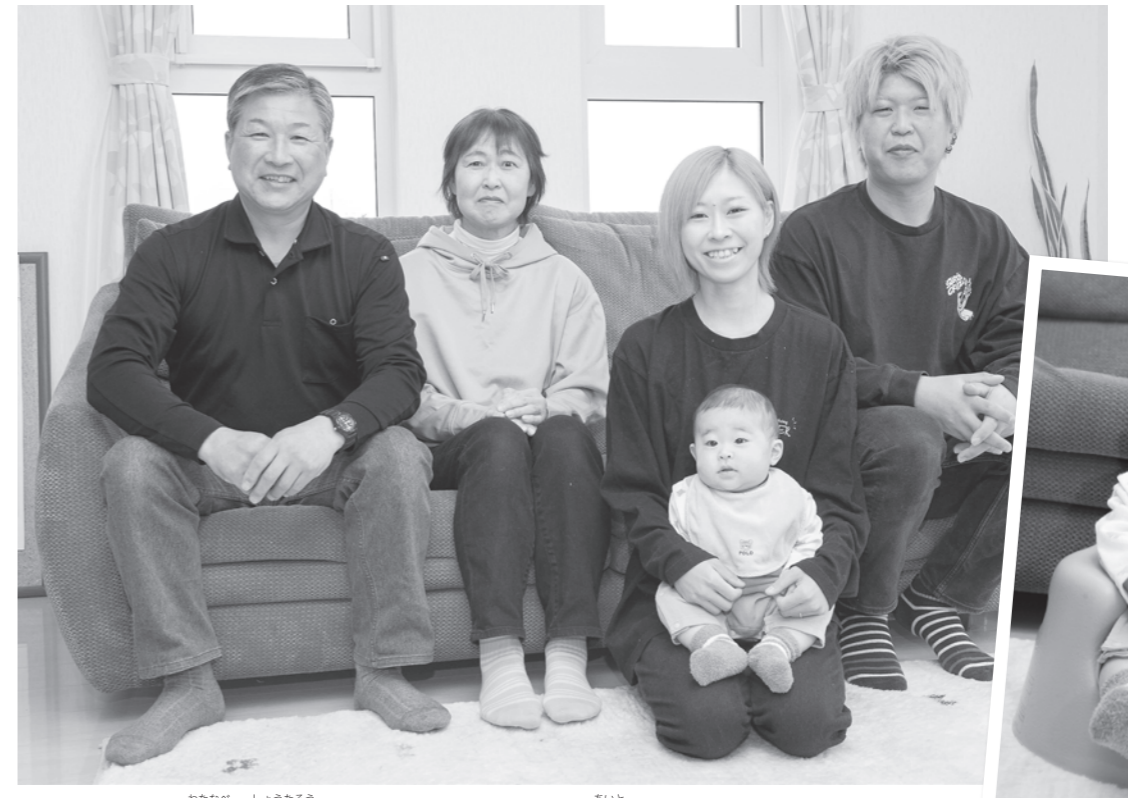
●電子メール
info@gyoren.or.jp

浜中漁協

わた なべ 渡部さんご家族

今月の 浜の 家族物語

表紙に登場いただいたご家族を紹介いたします。



【渡部さんご一家】渡部 祥太郎さん(33歳)、りなさん(30歳)、藍絃くん(5カ月)
※写真は祥太郎さんの父 文明さんと母 紀子さんと共に



漁業の魅力と課題を 目の当たりにし、漁師の道へ

浜中町で祖父の代からの昆布漁師という祥太郎さんですが、元々は家業を継ぐつもりはなく、高校卒業後は千葉県柏市の全国漁業協同組合学校へ進み、浜中漁協の職員として働きました。転職が訪れたのは24歳の頃、組合に出勤する前に、叔父が営むこまい(氷下魚)の小定置網漁を手伝った際、船っぱいに魚が捕れる光景を目の当たりにし、漁師という仕事のダイナミックな魅力に心を奪われました。また、当時から漁師の後継者不足について浜中漁協でも課題としており、「後継者の自分が後継者不足問題を考えるのは何か違うのでは」と、気持ちに変化が現れ、漁師の世界へ飛び込むことを決意します。

そうして漁師になって約10年が経過した祥太郎さん。この短い期間でも気候変動が昆布に与える影響を感じており、「以前に比べて昆布が腐る時期が早まったり、筋目昆布が増えたりと、確実に変化しています」と言います。現在、こうした厳しい状況に対応するため、祥太郎さんは昆布漁に加え、春の定置網漁として昨年からはうに養殖にも挑戦しています。ただ、うに養殖は年間を通じて手がかかるため、以前よりも自由な時間は少なくなったそうです。が、「ようやく自分たちの商売一本でやっていけるようになった」と前を向きます。

自分たちの世代でできることを 積極的に取り組みたい

近年、父から船の舵を任せられ、自分で考えることが増えましたが、より仕事が「楽しい」と感じるようになったそうです。そんな祥太郎さんの漁師生活を支える妻のりなさんとは、地元祭りで出会いました。母方の実家が昆布漁師ということもあり、漁業への理解は深く、「今は昆布だけでなく色々な仕事をしているので、自分も新鮮で楽しいです」と、夫の挑戦を温かく見守ります。

祥太郎さんは、今年4月から組合の青年部部長に就任が決まっております。「組合や行政と連携し、浜中ブランドのPRなど自分たちの世代でできることに積極的に取り組みたい」と意欲を見せます。そして、父親としての一番の願いは、息子の藍絃くんが大きくなった時に、豊かな海が残っていること。「上の代の方たちがそうしてくれたように、将来、自分の息子が漁師になりたいと言った時に、選択肢の一つとして胸を張って勧められる環境を守ってほしい」と語ります。気候変動という大きな課題に直面しながらも、家族や地域の仲間と支え合い、柔軟な発想で未来を切り拓こうとする渡部さん夫妻。その力強い眼差しは、浜中の漁業の明るい未来を照らしているようでした。



🐟 材料 4人分

ほたて(玉冷) …… 8個
片栗粉 …… 大さじ2
長ねぎ …… 1本
にんにく …… 1片
サラダ油 …… 適量(揚げ油用)
サラダ油 …… 大さじ1

A

ケチャップ …… 大さじ4
醤油 …… 大さじ1
砂糖 …… 大さじ1と1/2
酒 …… 大さじ1
豆板醤 …… 大さじ1
水 …… 130cc

🐟 作り方

- ① ほたて(玉冷)を2～3枚に輪切りにし、片栗粉をまぶす。
- ② 長ねぎとにんにくをみじん切りにする。
- ③ Aの材料を全部合わせておく。
- ④ ほたてを180℃の油でカラッと揚げる。
- ⑤ フライパンに大さじ1のサラダ油を入れ、みじん切りにしたにんにくを炒める。火が通ったら③を入れる。
- ⑥ 煮立ったらほたてを戻し入れ、からめてから長ねぎを入れる。

道の
お母さん
レシピ

ほたてのチリソース

今回は「ほたてのチリソース」をご紹介します。
豆板醤の量で辛さを調整できます。お好みに合わせて
加減してください。

令和7年10月21日開催、第152回「浜のおかあさん料理
教室」by コープさっぽろにて紹介しました。



野付漁協
山崎 真由美さん